

## 再評価結果（平成26年度事業継続箇所）

担当課：道路局 国道・防災課  
担当課長名：茅野 牧夫

事業名 一般国道13号 <small>かわべ</small> 河辺拡幅	事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 東北地方整備局	
起終点 自：秋田県秋田市 <small>かわべじんないあざじんない</small> 河辺神内字神内 至：秋田県秋田市 <small>かみきたてこの</small> 上北手古野			延長	6.6km	
事業概要 一般国道13号は、福島県福島市から秋田県秋田市に至る延長369.6kmの主要な幹線道路である。 河辺拡幅は秋田市河辺神内字神内から秋田市上北手古野に至る延長6.6kmの4車線道路である。					
H3年度事業化	H3年度都市計画決定 (H1年度変更)	H4年度用地着手	H6年度工事着手		
全体事業費	180億円	事業進捗率	46%	供用済延長	2.4km
計画交通量	17,100台/日				
費用対効果 分析結果	B/C (事業全体) 1.5 (残事業) 2.0	総費用 (残事業)/(事業全体) 99億円/ 225億円 (事業費: 78億円/ 191億円) (維持管理費: 21億円/ 34億円)	総便益 (残事業)/(事業全体) 202億円/ 326億円 (走行時間短縮便益: 184億円/ 302億円) (走行経費減少便益: 14億円/ 16億円) (交通事故減少便益: 3.7億円/ 8.1億円)	基準年 平成25年	
	感度分析の結果 【事業全体】 交通量: B/C=1.3~1.6(交通量 ±10%) 事業費: B/C=1.4~1.5(事業費 ±10%) 事業期間: B/C=1.4~1.5(事業期間 ±20%) 【残事業】 B/C=1.8~2.2(交通量 ±10%) B/C=1.9~2.2(事業費 ±10%) B/C=2.0~2.1(事業期間 ±20%)				
事業の効果等 ①円滑なモビリティの確保 ・並行区間等の渋滞損失時間: 10万人・時間/年、渋滞損失削減率: 約10割削減 ②安全で安心できるくらしの確保 ・大仙市役所協和庁舎から秋田赤十字病院(現況27分)へのアクセス向上が見込まれる ③安全な生活環境の確保 ・事業中区間(通学路指定区間)の自動車交通量: 16,953台/12h、歩行者交通量: 100人(対象区間を通学する河辺小学校児童数)において、歩道が無い区間(当該区間の約2割)に歩道が設置される ④災害への備え ・現道等の架替の必要のある老朽橋梁(河辺跨線橋(架設後48年経過)、和田大橋(架設後53年経過))が解消される ⑤他のプロジェクトとの関係 ・河辺地区都市計画マスタープラン、秋田市総合交通戦略に位置づけられている					
関係する地方公共団体等の意見 ・秋田県知事の意見 渋滞解消や自動車・歩行者相互の安全確保、救急搬送や物流ルート of 安定など、県都秋田市周辺の交通円滑化は県の重要課題であり、事業の継続に異議はありません。  ・以下の団体等から、河辺拡幅の整備促進について要望あり 秋田市(秋田市長) 秋田県(秋田県知事、秋田県議会議長、秋田県議会建設振興議員連盟)					
事業評価監視委員会の意見 対応方針(原案)どおり「継続」が妥当である。					
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等 この事業の目的が失われるような道路交通状況の変化及び関連プロジェクト等の変更はない。 平成11年度以降、平成19年度までにL=2.4kmの4車線化が図られている。					
事業の進捗状況、残事業の内容等 事業進捗率46%(うち用地進捗率50%)					
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等 事業の進捗に係る問題はない。					

施設の構造や工法の変更等

他公共事業との発生残土利用調整、再生資源（再生砕石やアスファルト合材等）の活用等コスト縮減を図っている。

対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

以上の状況を勘案すれば、当初からの事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。  
 ※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。